

【年間テーマ】

平成 27 年 10 月 15 日提出

日付	平成 27 年 10 月 10 日 (土)			
場所	福ビル	記録者名：中野 香織		
出席者 (敬称略)	北九州湯川病院 岩見 実穂子	小森病院 和田 多美子	有吉病院 中野 香織	和仁会病院 平山 寛美
	東福岡病院 高橋 由美	福岡未来病院 近藤真理枝	水上さん	
テーマ	前回の問題点の実施・結果報告と 12 月からの予定			
結論	<p>胃管栄養注入時以外のチューブ抜去時のレポートは不要なのではないか、またレポートの簡素化について→上司に相談した結果、パソコン書式なので変えられない。注入時以外でも抜去したらインシデントになるのでレポートは必要。</p> <p>胃管注入中は脇にクッションを使用、また注入回数を減らすのをDrに交渉する</p> <p>→脇にクッションも抑制という意見、また注入回数についてもDrの許可がなかなかおりない。しかし、チューブの固定の工夫をしたり、まずはミトンではなく軍手を使用したりとスタッフの抑制廃止に向けた意識は高まっている。今後は、他部署にも広めていきたい。</p> <p>向精神病薬を抑制にする働きかけについて→Drに説明、働きかけをし、少しずつ薬剤の調整をするなど意識づけができてきた、今後も引き続き働きかけていく。</p> <p>ミトンの廃止は現在も難しいが日中のみフリーにしたり、抑制時間短縮や、手浴を積極的にしたりとスタッフの意識は高まっている。4点柵廃止については横ばい。</p> <p>センサーマットについて、現在委員会で使用基準を作成している。院内で勉強会を開催する予定である。</p>			

<p>決定事項</p>	<p>今後も引き続き抑制廃止に向けてそれぞれの病院でスタッフ全体の意識が高まるようこの会に参加しているスタッフが積極的に委員会や上司に働きかける。</p> <p>12月には、引き続きそれぞれの施設の課題にむけてのとりくみの報告と、抑制がなぜなくなるのかを原因分析する。そして、2月にそれに基づいてどのように病院全体でスタッフの教育をしていけばよいのかを話し合う。</p>
<p>備考</p>	
<p>次回討論項目</p>	<p>上記記載</p>

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@fukuokakenryo.jp

(FAX.092-691-3961)